

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚原発扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Carcinoma of the skin metastatic to parotid area lymph nodes	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ9-10、SCC-CQ10-7	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ I V ）	
	Pubmed ID	1938361	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Head Neck	
	雑誌 ID		
	巻	13	
	号	5	
	ページ	427-33	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1991 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Taylor BW Jr	フロリダ大学
その他著者 1		Brant TA	同上
その他著者 2		Mendenhall NP	同上
その他著者 3		Mendenhall WM	同上
その他著者 4		Cassisi NJ	同上
その他著者 5		Stringer SP	同上
その他著者 6		Million RR	同上
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	皮膚癌（扁平上皮癌と基底細胞癌）で耳下腺領域に転移した症例の治療成績を検討する		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	フロリダ大学		
	対象者	扁平上皮癌 57 例、基底細胞癌 3 例 全例に耳下腺領域にリンパ節転移がある（原発巣の直接浸潤例なし） 原発巣は制御されている：41 例、原発巣再発：14 例		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
	介入（要因曝露）	手術単独治療 8 例、放射線療法単独 16 例、両者の併用 37 例 放射線療法：1 回線量 1.8-2 Gy 総線量：60 Gy（切除断端陰性）、66 Gy（顕微鏡的陽性）、70 Gy（腫瘍が肉眼的に残存している）		
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分	
		1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		3	疾患特異生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		4	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	主な結果	局所制御 手術単独：5 / 8 (63%)、放射線療法単独：6 / 13 (46%)、 手術+放射線療法：32 / 36 (89%) 手術と放射線療法で再発した症例は切除断端が陽性であるか、肉眼的に腫瘍が残存した腫瘍であった。切除断端が陰性で、顔面神経浸潤がない腫瘍は全て制御された。 手術と放射線療法を行った症例の5年疾患特異生存率は75%であった。両者を併用した群で重篤な合併症はなかった。		
	結論	手術+放射線療法を施行した症例の局所制御は良好であった。特に、切除断端が陰性で、顔面神経浸潤がない腫瘍は全て制御された。		

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	線量に関する記載が考察に書かれており、読みづらい論文。患者の背景なども表になっていない。 バイアスを含んだ患者選択であり、結果の解釈は要注意。 レベル I V